

神大フェスタに箱庭体験で参加しての感想

人間科学科3年 成井ゼミナールⅡ 丸井 勇生

私たち、成井ゼミナール一同は、10月31日と11月1日の二日間、88講堂で、一般の来訪者の方や学生の方に箱庭やコラーージュを体験していただくということで神大フェスタに参加しました。趣旨は、ゼミ活動で学んでいる箱庭療法やコラーージュの紹介と、その創作体験を実際に行ってもらい、カタルシス効果というものを体験していただくことでした。これは昨年の神大フェスタ、オープンキャンパスから引き継いだものです。

箱庭療法とは57×72×7（cm）の底が青く塗られた砂箱に、人、動物や木、花、乗り物、建築物、橋、柵、滝や山などを模した玩具を置くことで一つの世界を表現します。底が青く塗られているのは水の表現のためで、砂を自由に動かして川や海、湖などの表現ができます。砂を使った地形の表現も可能です。そうした自由な

世界の中で出てきた表現をカウンセラーは受け止め、会話によるやり取りによってカウンセリングを進めていくという心理療法です。

神大フェスタの活動では、ゼミ生はカウンセリングはせず、来ていただいた方には箱庭やコラーージュなどの創作活動そのものが持つカタルシスを体験していただきました。

実際に箱庭を体験された方に感想を聞くと、ほぼ全ての方に面白かったと答えていただけました。中には非常に集中して箱庭を作られる方もおり、置くものにこだわり、一時間以上悩んで作られた方もいらっしゃいました。忙しい中時間を割いて、大変長い時間をかけて箱庭を作っていただけたことは、とてもありがたいことです。箱庭を作っている時間がその人にとってとても意味ある時間を感じられて、箱庭を通して自分と向き合う時間がその人にとって大切な

時間と感じられたのなら幸いです。

箱庭を作っている間の感覚は、特別なもので普段日常では感じられない感覚があります。それはとても温かく、ワクワクするような感覚です。自由で、守られた場所の中で、箱庭の中に好きなように表現できるようなことが、この感覚を生み出しています。普段忙しく、目的的に行動している日常にはなかなかない感覚だと思います。実はそのような感覚を体験していただくことも今回の目的で、実際にゼミ生も箱庭を体験し、教示ができるところまで勉強しています。箱庭を作っている際の、温かで活動的な感じ、これはぜひ味わってもらいたいので、来年も一人でも多くの方に来ていただきたいと思っています。

一人で長い時間をかけながら箱庭を作られた方もいれば、短い時間であっという間に箱庭を

作られてしまう方もいて、本当に様々な方がいらっしやいました。箱庭の使い方も人それぞれで、大学生や高校生などの若い人や、親子でいらした方では、友達同士、親子で一緒に一つの箱庭を作られる方も多くいらっしやいました。声を掛け合いながらわいわいと箱庭を作っていく作業は協働作業といった感じで、そのような友達、親子の人間関係の交流としても楽しんでいたように思います。

ここからは少し内輪な話になりますが、今回の活動を主に支えていたのは、私の一つ後輩のゼミI生たちでした。ゼミII生の人たちはインターンなどの就職関連の用事でなかなか参加できなかったのですが、その分、ゼミI生の人たちが主役となって主な教示や紹介、呼び込みなどの活動をしていました。オープンキャンパスの活動から引き続き皆しっかりと動いていて、その活躍ぶりはとても見事なものでした。箱庭を紹介する姿からもしっかりと勉強していることが伝わってきますし、箱庭を教示するときは心をあつかうということにしっかりと向き合っていて、来訪者の方に寄り添ってやっていると思われるし、今年の新大フェスタでは規模を拡大して箱庭を昨年の二台から四台に増設し、それでも追いつかないほどの来客数でしたが、後輩のゼミ

I生はとても優秀なので、きっと彼らなら来年の新大フェスタも良いものにしてくれるでしょう。

自分と同期であるゼミII生の方は就活関連もあり両日出られる人は少なかったのですが、参加できた日は皆それを補って余りある程とても精力的に活動をしていました。ゼミI、ゼミII両方の活動があつてこそ、新大フェスタでのゼミ活動は見事に成功したのだと思われまます。

さて、私は今回、箱庭の教示などはあまり行えなかったのですが、自分が教示して作つてもらった箱庭の中でとても感動した箱庭を紹介したいと思います。

その人は箱庭を作り始めると、L字の形のついでてを組み合わせて、四隅にそれぞれ電話ボックスのような直方体の領域を設けました。しばらくするとそのL字型のついでての連結はほどこかれ、カギカッコのような少し広がった領域を作りしました。四隅の閉じていた領域はそれぞれ広がり、空いたスペースに玩具が置かれました。左下に女のひと、携帯電話を持った外資トレーダーのようなセールスマンの男、右上に魔女と対決する騎士、左上に野球をしている人、右下に羊を世話している夫婦が置かれました。左下と右上、左上と右下の領域がなんとなく対

応しているようにも思いましたが、未だ四つの領域は独立しており、つながりを持っていませんでした。箱庭の真ん中の領域は空白のままです。その人はこれで完成と言いました。私が「これで完成ですな」と確かめると、その人は少し考えて「ちょっと待ってください」と言つて玩具の中から何かを探し始めました。私もそれについていくと、その人はふと壁にかけられたゼミ生の作つた箱庭の写真を見て「もっと皆さんは、水の表現をしているのですね」と言いました。その人の箱庭は砂に一切触れていない箱庭でしたから、水の表現のない箱庭だったのです。しかしその会話の後、その人は玩具のところに戻ると、突然、思いついたように「何か」を見つけ、持つて行って箱庭の中央に置き、「これで完成です」と言いました。箱庭の中央に置かれたのは、正面を向けて並んで置かれた「少年と少女」でした。それが置かれた瞬間に、私はとても感動を覚えました。それまで四隅で分割されていた世界が、少年と少女が置かれることで、一つの統合された世界へとまとめ上げられたように思われたのです。真ん中に置かれた少年と少女が、箱庭全体の領域を生き生きとした生命力のあるものに変えたときえ私には感じられました。箱庭を作つた人もとても満足し、

自ら自分の箱庭の写真を撮ることを希望し、その場でプリントアウトしてできた写真は持ち帰られました。きっとその人は非常に良い体験をされたのだと思います。新たな内的な、心の仕事の一步を踏み出したのかもしれませんが。箱庭を作る中でそのきっかけの感触というものをつかんでいただけたのなら良かったなと思いました。

この神大フェスタでの箱庭体験を実施して、自分も、来ていただいた方も、ゼミ生も、実際、とてもよい体験をしていたように思います。その体験は私たちにとって非常に貴重なものだったと思います。箱庭やコラージュをつくるなか、それぞれ違った場面の、それぞれ違った体験の中で、きっとそれは皆感じていたことだと思います。

来年もまた、いろいろな人に来ていただきたい、そう思えた神大フェスタでした。

